



雪の御社頭（平成23年1月16日）

<http://www.okunijinja.or.jp>

開花前線

平成二十三年の年明けは厳しい寒さが続きましたが、二月末頃になりましてやっと暖かくなり、楽しみにしていた河津桜も咲きそろってまいりました。氏子崇敬者の皆様方には、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、当社には土、石、砂等に関する物の一つとして、拝殿と神徳殿の間に「御霊砂ごれいさ」がお祀りされています。古来よりこの御霊砂を撒きお清めした上で、工事や建築等を始めると災いがなく、無事に成就されると伝えられています。御霊砂は境内を流れる宮川の川砂を利用しています。御本殿横より三百メートル程上流にある堆積した場所より砂を採取し、小石等を取り除きます。その後は天日に晒すことと、金属製の細かい網が張ってある箕を使い漉すことを交互に数回実施します。次に綺麗になった砂をお祓いた後、御本殿の床下に運び、木製の樽の中に入れて数年鎮めます。最終的には御霊砂の場所に移されお祀りされます。以前は直接この場所から砂をお受けになる方もおられましたが、現在は社頭にて授与いたしておりますのでご希望の方はご利用戴ければ結構です。また、地鎮祭にて使われる「鎮めの石」もお祓いの後に、御本殿の床下にて一時鎮めます。使われる時は神饌所の真名井の井戸水にて洗い清め乾燥の上、奉書にて丁寧に包み太い麻ひもにて縛ります。この「鎮めの石」は地鎮祭斎行後に住宅等の土中に祀られます。この様に境内の砂、石等は神社の大切な神具として活用されております。

暖かくなると例祭への準備が進みます。一方、弥生三月から卯月四月に掛けては、染井吉野やしゃがをはじめ様々な花が咲く時期でもあります。ご参拝の折にお時間がございましたら、是非少し足をのびされて、宮川沿いの境内を散策してみたいかがでしょうか。斎庭うらにわの草花や新鮮な空気と森林浴、さらには風の音や川の水音も楽しんでいただけます。氏子崇敬者の皆様方には、どうかご平安にて日々お過ごしになりますようお祈り申し上げます。

年末年始のご報告



お正月の参拝風景（1月2日）



迎春準備と門松（12月28日）



当社氏子青年会による拝殿・注連縄の奉納（12月19日）



節分祭の鳴弦式（2月3日）



奉納の大絵馬（12月29日）



どんど焼とおはたき餅（1月16日）



御弓始神事の大的式（1月17日）

節分祭の齋行

二月三日（木）午後二時より節分祭を齋行致しました。本年の特別奉仕者として俳優の寛利夫さん・女子レスリング世界選手権金メダリストの坂本日登美さんをお招きして行われました。

お二人は、九十三名の年男役・年女役の皆様と共に大紋を身にまとい、追儼神事・豆撒神事・宝槌打振神事・厄災を祓う福笑い神事をご奉仕されました。祭典後、拝殿前での記念撮影に引き続き続いて舞殿及び特設舞台にて豆撒きが行われました。

当日は、穏やかな日和に恵まれたこともあり、お二人の姿を一目見ようとという方や福を求める方など大勢の参拝



節分祭特別奉仕者 寛利夫氏・坂本日登美選手（2月3日）



節分祭の豆撒き（2月3日）

者にて賑わい、節分祭は無事滞りなく齋行されました。

師走の大祓式齋行

十二月三十一日大晦日の午後三時より、師走の大祓式を齋行いたしました。

大祓式は六月と十二月の年二回行われ、知らず知らずのうちに心や体についた罪やけがれを、身代わりとなる人形に託し、祓い清める日本古来の伝統神事です。当日は氏子内外より多くの方々が見物され、神職とともにお祓いを受け、清く正しい身に立ち返りました。その後、拝殿にて齋行されました除夜祭にも参列され、大前に今年一年間の無事を奉告するとともに、新年が良き年であるようにお願い申し上げました。

来る六月三十日には境内に設けられました「茅の輪」をくぐる、夏越の大祓式が齋行されます。当日ご参列いただければ、お祓いをご一緒にお受けいただけますので、是非ともご参列いただきますようお願い申し上げます。



師走の大祓式（平成23年12月31日）

田遊び祭・田遊び神事

正月三日午後一時より田遊び祭が拝殿にて齋行され、その後「田遊び神事」が舞殿にて行われました。田遊び神事は旧社家の皆様方により継承され、毎年正月の恒例神事として行われております。

本年の豊作を祈願し田作りから刈り入れまでの稲作過程を一番「素鋤」から十二番「歌おろし」までの演目により模擬的に演じます。田に見立てた太鼓を中心に田唄に合せて所作を行う素朴な神事に、参拝者は感心を寄せていました。神事後、神札の授与・投げ餅が行われました。



田遊び神事10番「苗賞め」（1月3日）

遠州とこわか塾の開催

昨年九月に開塾いたしました「遠州とこわか塾」の第二回目・第三回目が塾生を対象に開催されましたので、ご報告いたします。

■第三回

平成二十三年二月二十七日(日)

午後二時 小國神社研修室

演題「書と伝統」民族の感性と誇り

講師 書家

杭迫 柏樹 先生

これまで三回の講話を通じ、日本の真の歴史・伝統・文化の意義を教わり理解することで、その素晴らしさ・美徳を再認識いたしました。そして、過去の流れから現在の日本を知ること、何が変わらず何が変わったのか、何が欠けて何をすべきであるかを確認いたしました。



日本大学法学部教授 百地 章氏 (12月12日)

■第二回

平成二十二年十二月十二日(日)

午後二時 小國神社研修室

演題「日韓問題の正しい理解を」

講師 日本大学法学部教授

百地 章 先生



書家・杭迫柏樹氏 (2月27日)

紀元祭の齋行

二月十一日の建国記念の日に紀元祭を齋行いたしました。例年、氏子内の三地区から、神社に向かって建国の奉祝パレードを実施していますが、本年はあいにくの雨天のため中止となりました。

祭典後は大宝殿にて奉祝式典を実施し、祭典からご参列いただきました森町長村松藤雄様を始め、静岡県議会副議長岩瀬護様、奥之山隆県議会議員様からご祝辞を賜りました。

また境内では、甘酒と健康豆をご参拝いただいた方々に授与いたしました。雨天のため、中止されましたが、例年氏子青年会により、餅つきやビンゴゲームが執り行われております。



村松藤雄森町長のご祝辞 (2月11日)

祈年祭の齋行

二月十八日午前10時より祈年祭が齋行されました。祈年祭とは新しい年の五穀豊穡・国家安泰を祈願する祭典で、「きねんさい」または「としごいのまつり」と読みます。十一月に収穫を感謝し齋行される新嘗祭(いなめさい)と共に年間の祭事の中でも最も重要な祭典の一つです。

当日は朝まで小雨が降っておりましたが次第に上がり、屋外の祓所にて修祓を行い、参進後は拜殿にて厳肅に執り行われました。森町議会議長大場孝侑様また森町観光協会長松井晴山様を始め約七十名のご参列を賜りました。



祈年祭の参進 (2月18日午前10時)

第九回「写真コンテストのご案内」



境内を彩る四季折々の草花や祭事・催物をテーマに作品を募集しています。撮影期間は平成二十二年十一月より平成二十三年六月下旬の花しょうぶ園閉園までとなります。ご応募は作品の取りまとめの都合上、六月一日より同月末日までにお願います。毎回、風景写真からスナップ写真まで幅広くご応募をいただいております。

なお、応募チラシは神社及び写真材料商組合中遠支部加盟店にて配布中です。ご不明な点などありましたら、当社写真コンテスト係までお問い合わせ下さい。



研修室にて「写真コンテスト」作品の展示（平成22年9月13日）

振興会の活動



奉納農産物品評会の実施（毎年11月23日）

敬神婦人会の活動



毎年1回の親睦旅行（1泊2日の行程）

氏子青年会の年間活動

当社氏子青年会は、現在二十代から四十代の男性で、会長以下四十一名の会員にて奉仕活動しております。

- ・ 主な活動は、
- ・ 例祭の十二段舞楽奉仕
- ・ 全国氏子青年協議会大会へ参加
- ・ 拝殿及び神徳殿の注連縄製作・奉納
- ・ 正月のたるま授与奉仕
- ・ どんど焼祭奉仕
- ・ 建国記念奉祝パレードの実施

これらの他にも大きな祭事の時には、神社に協力し奉仕しております。



氏子青年会の活動「開運福だるま」授与

古代の森シリーズ 31

御朱印

御朱印は社名の入った印を紙などに押し、主に参拝者の方にお頒けするものです。多くの神社では単に印を押すだけでなく、神社名や参拝日を墨書きし、それらを含めて御朱印と呼びます。御朱印を集める際は朱印帳と呼ばれる専用の帳面を用いるのが一般的ですが、中には朱印軸と呼ばれる掛け軸に直接印を押すものもあります。

当社は遠江國一宮ですので全国より多くの参拝者が訪れます。その中には全国の一宮巡拝を行っている方々の姿を見ることができ、通常の朱印帳より一回り大きい、一宮巡り専用の朱印帳にて御朱印をうけられます。

御朱印また御朱印帳は御守、神札と同様に授与所にてお頒けいたしております。



御朱印帳



御朱印

まつり歳時記

三月〜六月

三月

弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十日 初甲子祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
- 十八日 鉦執社例祭 (午後一時半)
- 二十一日 春季皇霊祭遙拝式 (午前九時)

四月

卯月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 二日 勸学祭 (午前十一時)
- 三日 神武天皇祭遙拝式 (午前九時)
- 三日 一宮さくら祭 (午前十時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 八日 杉祭 (午前九時)
- 八日 全国一宮等合殿社例祭 (午前九時半)
- 十四日 垢籬祭 (午前十一時)
- 十四日 舞 揃 (午後二時)
- 十六日 猷詠祭 (午前九時)
- 十六日 氏子入り奉告祭 (午後二時)
- 十六日 十二段舞楽奉奏 (午後二時)
- 十七日 前日祭 (午前十時)
- 十七日 十二段舞楽奉奏 (午前十一時)
- 十七日 神幸祭 (午後二時)
- 十七日 猷茶祭手揉み保存会 (午後四時)
- 十八日 例祭 (午前十時)
- 二十九日 昭和祭 (午前九時)

五月

皐月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 五日 こども祭 (午前十時)
- 六日 本宮山青葉祭 (午前十一時)
- 九日 甲子祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

六月

水無月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 一日 花菖蒲園開園奉告祭 (午前九時)
- 四日 花菖蒲観賞祭 (午前十時半)
- 五日 花しょうぶまつり (午前十時半)
- 六日 本宮山月次祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十一日 御田植祭 (午前九時)
- 三十日 夏越の大祓式 (午後三時)



西参道のしゃくなげ (平成22年4月21日)

平成二十三年例祭

本年の例祭の日程は、四月十七日(日)に前日祭及び神幸祭、十八日(月)に例祭となり、それぞれ関係者ご参列のもと厳粛に斎行いたします。

神幸祭では御神輿の渡御があり、参道で行列を成します。また、伴いまして振興会主催で行われる勅使行列が、この行列に合流します。勅使行列の勅使役は、年毎に選任し、奉仕いただいております。

また、十六日(土)・十七日(日)の二日間には国指定重要無形民俗文化財であります古式十二段舞楽が奉奏されます。この奉奏奉仕にむけ、三月には練習所が始まり、子供達においては練習所に泊まり込みの合宿となります。

神幸祭での行列並びに神幸所祭、また舞楽奉奏は、どちらも例祭にかかわる大きな神賑わいとなりますので、多くの皆様にご覧いただきたいと思っております。



神幸祭にての神楽舞 (平成22年4月18日)

勸学祭・氏子入り奉告祭のご案内

本年の勸学祭は四月二日(土) 午前十一時より、また氏子入り報告祭は四月十六日(土) 午後二時より斎行いたします。勸学祭は、氏子地域で小学校・中学校に入学されますお子様にご参列いただき、神前にて学業成就・身体健康・交通安全をご祈願申し上げます、お祝いたします。

氏子入り奉告祭は、平成二十二年四月一日より平成二十三年三月三十一日までにお生まれになられたお子様と嫁入り・婿入り・転入居住された方にご参列いただき、当社の氏子に加わったことを神前にてご奉告申し上げます。安全・無病息災をご祈願いたします。お申し込みは、各地区の総代さんを通してご連絡いたしますので名簿に明記の上、ご家族お揃いでご参列下さいますようお願い申し上げます。



十二段舞楽「太平楽」 (平成22年4月18日)

一宮さくら祭の開催

四月三日(日) 午前十時より恒例の「一宮さくら祭」を開催いたします。メイン会場となる門前特設ステージでは、バンド演奏や舞踏グループ「七福神」の勇壮かつコミカルな踊りなど各種の公演をお楽しみいただき、終演予定の午後三時頃には投餅を実施します。境内では、拝殿前の舞殿にて琴・尺八奉納演奏、参拝者休憩所前の参道西側にて野点や甘酒がふるまわれます。また、夜間は午後九時まで門前周辺をライトアップしますので終日お楽しみいただけます。

なお、雨天の場合は境内にある大宝殿がメイン会場となります。



門前の桜 (平成22年4月3日)

本宮山青葉祭

五月六日に本宮山山頂にて青葉祭が執り行われます。奥宮の奥磐戸神社には、新緑の香り豊かな黒文字の枝が飾り付けられます。午前十一時より祭典が斎行され、その後昼食をいただきます。標高五五一メートルの山頂からは天竜川を眼下に遠く遠州灘まで望むことができます。

午前九時に当社から送迎バスが出発し、山頂下の駐車場より徒歩にて奥宮を目指します。是非、皆様方のご参列をおまちしております。



本宮山庁屋からの遠望 (平成22年5月6日)

命名

石田 和 掛川市
黒田 陽太 菊川市
柳瀬 颯馬 掛川市
山田 紗野 森町
小栗 聡哉 森町
成松 二胡 袋井市
山崎 袖維 掛川市

亀山 泰一 福岡市
岩本 拓馬 磐田市
青木 綾音 袋井市
大石 隆羽 磐田市
鈴木 聡真 袋井市
鈴木 佑真 袋井市
渥美 勇和 掛川市

齊藤 慶治 掛川市
志賀 湊任 袋井市
加藤 璃来 袋井市
鈴木 涼聖 浜松市
鈴木 聡真 袋井市
高木 維真 森町

○当社では、お子様の命名を申し受けております。

平成二十二年十二月一日
〜平成二十三年一月三十一日

稚児行列奉仕者の募集

四月十七日(日)午後二時より神幸祭(おわたり)を斎行し、稚児行列を執り行います。

つきましては、本年も行列に参加される稚児を募集しておりますので、ご希望の方は当社までご連絡ください。
電話 〇五三八一八九一七三〇二
振興会 稚児行列係

募集要項

- 一、対象者 小学校三年生位までの男女
- 一、参加費 五,〇〇〇円
- 一、募集人員 若干名(先着順)
- 一、申込締切 四月二日(土)



稚児行列

献詠祭の和歌募集

当社では、献詠祭で神前に奉納する和歌を募集しています。

左記の要項にて多数ご応募くださいますようお願い申し上げます。

- ◇兼題 「島」「野」
- ◇用紙 短冊

(歌は楷書にてお書き下さい。裏面に住所・氏名を明記下さい。)

- ◇献詠費 無料
- ◇締切 四月十一日(月)
- ◇宛先 〒四三七七〇二二六

静岡県周智郡森町一宮三九五六一
小國神社社務所 祭儀課献詠係



御神木「ひょうの木」

「小國の杜・点描」



「奉納うさぎ」制作者の鈴木格子氏（12月27日）



豊田合成(株)荒島 正 副社長ご参拝（1月7日）



宮代神饌田のイセヒカリ（10月1日）



年末に参拝者駐車場の舗装整備の実施（12月29日）



(株)鈴木長十商店・(株)ネクサスコーポレーションによる用途指定寄付(境内整備)の奉納(12月24日)

平成二十三年三月十日
 「玉垂」（たまだれ）第三十一号
 題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七〇二二六
 住 所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八（八九）七三〇二
 FAX 〇五三八（八九）七三六七
 印刷 (有)デザインオフィス エム・エス・シー

平成二十三年一月十六日(日)午前八時三十分、冠雪した社殿を撮影いたしました。あまり普段は目にしない光景にご参拝の方々の中には写真撮影を熱心になされていた方がありました。

表紙写真について

〇「玉垂」三十号をお届けいたします。十二月から二月までの祭事や諸行事を報告させて頂きました。また、四月の例祭に関する事項をご紹介いたしました。この時期の祭典・行事は屋外にて斎行または実施することが多く、天候の変化に担当者はいつも気遣っております。いつも通り、関係各位のご理解と協力を宜しくお願いいたします。

〇伊勢神宮収蔵作家で知られる鳥居禮画伯の個展「壺峰富士と桜展」が三月三十日より四月十八日迄の予定にて開催されます。当社では平成二十年秋の開催に続き、二回目の個展となります。入場は無料となりますので、是非「新大和絵」の世界をご鑑賞ください。

編集後記



陽春の小國こつまち横丁（2月15日）